



竜雲舜虹苑は地域の皆様の心と心をつなぐ虹の懸け橋でありたいと願っています。

### 「南海地震の思い出」

昭和二十一年十二月二十一日、早朝、南海地震が起きた。

私は当時、小学校五年生で、この頃の出席番号は戸籍の受付順であった。私は四十五番で最後であった。ところが、戦後に都市部から疎開してきた生徒が私の後ろに続き、組の人数は六十名ほどになっていた。

五年生になり初めて男性の先生が担任になった（太平洋戦争で男性教師は出征していなかったため）。当時は男子組、女子組であった。担任になった男性教師は非常に熱心で厳しく指導してくださった。旧制の学校制度であったので、受験して中学へ進学しなければならぬ時代だった。

五年生の冬が近づいたとき、担任教師は「受験勉強をしなければならぬから、泊まり込みで課外授業をする。希望者は布団か毛布を一枚持って来い。」と言われた。私も布団を一枚持って行った。課外授業の場所は二階の修礼室（正義作法を指導する畳の部屋）だった。

先生の家は学校のすぐ裏で精米業をしながら教師をされていた。

私たち生徒は正規の授業が終わってから昼間の課外授業を受けて帰宅、早めの夕食をして学校へ行った。紙不足の時代だったので、問題集などはなく、黒板に先生が多くの問題を板書、生徒たちは各自で解き、難解なものは教えあった。問題が解けた頃生徒たちは騒がしくなる。先生はその時間を見計らってやって来て、指導回答をして下さった。

十二月二十日、先生の授業が終わって就寝時間になった。六、七人のグループで寝始めたが寒くて寝られない。机の上をグループの周りにかこった。また、おなかの上の布団の上に机を逆さまにしてのせたり、寒さしのぎを工夫して寝始めた。

地震に気が付いたのは、早朝五時過ぎ、暗い中、誰かの叫んだ声、家のきしむ音、揺れ、三、四人のものが立ち上がった。電燈をつけようとしていた。私も飛び起き、自分の服を持った。皆、起き上がり逃げだした。二階の窓を開け、ふみだそうとしている者に気が付いた。体を引く張ると逃げ出す場所を知ったのか、我々と同じ方向に逃げた。階段も二段とび、三段とび一階に降り、靴を誰のものか分からないが一足持ってはだしのまま運動場へ、地震の中、服を着た。服も履物も持たずに出ていたものもいた。「寒い、寒い」と言っていた。戦争中、空襲がいつあるか分からないから寝るときは衣類は枕元にと言われていたので習慣になっていた。先生は地震の中、駆けつけ、寒い運動場で私たちを励まし続けてくれた。この南海地震では、高知や和歌山などで死者が一千三百名ほどいたのである。

今、この地に地震が起きたら、とっさの時の持ち物、家から出る経路、逃げつく場所等考えておかななくてはならない。

称念寺 泉 達雄

※この度、震災で被災されました方々には心よりお見舞い申し上げます。



# 職員紹介



副主任介護職員  
青木 美希



主任生活相談員  
中村 裕美子

ショートステイ



介護職員  
前田 哲志



主任生活相談員  
大本 徳子

ケアハウス



副主任生活相談員  
美濃 洋美



主任生活相談員  
田村 博美

デイサービス



サービス提供責任  
荒川 美奈

訪問介護



ケアハウス便り

大本 徳子

ケアハウスでは、毎年五月の恒例行事として高松市飯田町の岩田神社へ藤の花見物に行っています。

藤の花房は約一メートルから二メートルにもなります。樹齢約八百年と言われ、棚の高さは約二メートル、広さ約二百六十平方メートルの藤棚いっぱい枝や花が広がる様子から「孔雀藤」と呼ばれているそうです。

今年は藤が満開の時に訪れることができ、ケアハウスの皆さんも壮大に咲きほこる藤を前に大変喜ばれていました。

## ◆地域交流ホールご利用の案内◆

ケアハウス竜雲内にある地域交流ホールは、会議、会合、クラブ活動、同好会などにご利用できます。



担当 … 大本  
TEL:087-888-5800

介護のことでお困りありませんか？  
ささいなことでも結構です。  
お気軽にご相談下さい。

竜雲舜虹苑老人介護支援センター  
電話：087-889-1091  
受付時間  
(平日 8時30分～17時30分)

社会福祉法人竜雲学園 竜雲舜虹苑

特別養護老人ホーム  
短期入所サービス  
通所介護サービス  
認知症型通所サービス  
訪問介護サービス  
老人介護支援センター  
ケアハウス

〒761-8078  
高松市仏生山町甲 3100 番地 2  
TEL:087-888-5800  
FAX:087-889-1004

